

市民との協働により 日本一しあわせなまちへ

市議会3月定例会が、2月27日から3月18日まで開かれ、議案の審議に先立ち、久喜市長は平成27年度の施政方針を表明しました。「市民が主体となった、持続可能な、明るく豊かに暮らせる活力あるまちづくり」を目指すため、「秩父市経営方針」を市民とともに実践していくとの決意を述べました。

平成27年度 最重要事項

①市役所本庁舎等の建設

秩父市役所本庁舎および秩父宮記念市民会館の本体工事は、平成28年12月までの完成と本体工事51億3千万円の経済効果が、市内一円に還元されるよう、様々な下請工事を市内業者に発注するよう働きかけていきます。また、来る6月議会には、市民会館のホール客席1,007席をはじめ、舞台機構、照明、音響などの舞台設備工事について、契約議案を上程すべく発注手続きを進めます。

市役所本庁舎等建設事業と秩父広域市町村圏組合が発注した新火葬場建設事業が、秩父地域全体の経済に最大限波及し、秩父地域が活気溢れる元気なまちと実感できるように取り組んでいきます。

②水道事業の広域化の推進

人口減少に伴う給水収益の減少や水道施設や管路の老朽化による更新事業の実施など、水道事業は大変厳しい状況です。これを打破すべく、水道事業の広域化に取り組んでまいります。

広域化のメリットとして、今後50年間の水道施設等の更新費用は、単独運営の1,036億円の試算に対し、917億円と119億円の削減が見込まれています。また、補助率3分の1の施設整備費国庫補助金も、10年間、獲得に向けた申請が可能となります。

今後、秩父圏域内の自治体と連携を密にしなが、平成28年4月1日の圏域内4水道事業の統合を目指すとともに、さらに、次の段階として、県内水道の一本化を具へ要望してまいります。

③産科医療の確保・民間医療機関との連携強化・地域包括ケアシステムの実践

市立病院の産科開設では、産科医師の情報提供を広く呼びかけるとともに、私が直接、大学病院等関係機関へ足を運び、医師確保に努めていきます。また、市立病院が「教育関連病院」として日本内科学会から認定されたことから、後期研修医等若い医師の受け入れを推進するとともに、4月からは、専門医による「消化器内科」を開設します。さらに、8月を目的に「電子カルテ」を導入し、医療情報の共有化、会計待ち時間の短縮、医療安全の向上等、業務の効率化と患者サービスの向上を図っていきます。

市立病院と民間医療機関との連携強化では、市立病院と民間医療機関とが、いわゆる病診・病病連携を推進し、それぞれの役割を分担、相互に協力しながら「秩父地域内完結型医療の実現」を目指してまいります。

地域包括ケアシステムの実践では、定住自立圏構想の下、医療・介護・予防・生活支援・住まいなどが、必要に応じて一体的に提供される、「ちちぶ版地域包括ケアシステム」を構築してまいります。

④おもてなし観光の推進

定住自立圏構想の下、さらなる

増加が見込まれる外国人観光客に対し、観光地秩父を全国に売り出すための誘客環境の整備を推進していきます。英会話事業の拡充やガイドの養成、日本政府観光局の外国人観光案内所の認定、案内標識やパンフレットの多言語化など、秩父地域全体で連携して実施してまいります。

秩父まつり会館は、平成26年度に引き続きリニューアルを行い、秩父地域全体の観光スポットにふさわしい、本物を体験できる施設として充実を図ってまいります。

併せて、鉄道、バス等の公共交通機関の利用促進とともに、国道や県道等、基幹道路の早期充実を強く要望し、秩父圏域全体への観光客倍増を目指します。



市議会定例会3月議会の様子

⑤危機管理体制の強化・WHO推奨のセーフコミュニティの推進

昨年改訂した秩父市地域防災計画の「大雪対策計画」に続き、災害対策基本法の改正に基づき、避難行動要支援者の避難対策や大規模災害時における緊急車両の通行ルートの確保に向け、地域防災計画の見直しを行います。

セーフコミュニティの国際認証取得では、「現地審査」の指摘事項を改善し、冬までには認証取得を目指していきます。併せて、花の木小・南小・秩父二中のインターナショナル・セーフスクールの国際認証も、平成27年度中の取得を目指していきます。

⑥新教育委員会制度の下、基礎学力の向上のための大改革

新教育委員会制度の下、積極的に教育委員会に関わり、学力調査等の結果を学校別に公表するとともに、その分析を行い、課題を明確にした上で、未来の秩父市を担う子どもたちの基礎学力の向上のために、大改革を行っていきます。

基礎学力の向上では、熱意をもって児童・生徒の確かな学力と自立する力を育成する教職員の資質向上を図るとともに、安心・安全が確保された上で、しっかり学習できる教育環境の整備を推進していきます。

学力調査では、全ての学校で県

平均を上回ることを目指し、基礎的・基本的な知識や技能の習得、英語学習の強化、その上で、学び・考え・表現できる力を育むとともに、家庭学習の習慣化、読書習慣の確立に取り組んでいきます。

⑦企業誘致と地元企業への応援・セメント跡地の有効活用を提言

雇用促進では、積極的な企業誘致への取り組み、地元企業の応援、「FIND Chichibu」との連携強化を図っていきます。「秩父に住んで働こう」をスローガンに、高等学校・ハローワーク・企業等と連携して雇用就労対策事業を実施し、地元就職やUターン就職、Iターン就職など若者の就業機会の拡大に取り組んでいきます。

旧秩父太平洋セメント第1プラント跡地の利用では、企業誘致と森林資源活用場の場としての提言を土地所有者の太平洋セメントへ行い、将来の秩父市発展の礎を築けるよう、その達成に向け努めていきます。

⑧環境ビジョンへの積極的な取り組み

森林資源を活用した地産地消の持続可能なバイオエネルギー循環システムによるプロジェクトを全面的に応援するとともに、これにより、林業再興や雇用の場の確保につなげていきます。

また、森林・林業・木材産業等の活性化策として、秩父産材の利用拡大を推進し、生産・加工・流通ルートの拡充を図るため、秩父広域森林組合などの林業事業体と連携しながら、秩父市の森林が蘇る、林業再生を目指していきます。

環境保全では、潜在する再生可能エネルギーを活用し、新たなエコタウンの推進に取り組んでいきます。

また、県の再生可能エネルギー等導入推進基金事業、いわゆる「グリーンニューデール基金事業」により、歴史文化伝承館に太陽光パネルと蓄電池を設置、使用電力量の低減による電気料金の削減をはかり、災害時には、必要なエネルギー源として活用していきます。

⑨中心市街地の再開発

中心市街地の再開発では、商店街等の集客力向上と販売力向上のみならず、住み、集い、安らぎ、健康でいられる場であること、さらには、感性を刺激し、喜びを与えるスペースであることが必要であると実感しています。その構想として、県事業の中央通線街路整備事業に合わせ、歴史を感じさせる魅力ある目抜き通りの創造に向け取り組んでいきます。また、秩父駅東側、

秩父神社周辺、番場通り、東町通りなど、訪れ集う中心市街地に生まれ変わらせるよう、秩父銘仙など伝統産業や、酒類、菓子など秩父ブランドの展示・販売が可能なまちを創出していきます。

⑩健康診査・特定健診受診率向上

さらなる広報に加え、魅力ある集団検診とするために、検査内容の充実や日程の見直しなど、より受診しやすい環境づくりを進めていきます。

政策推進の決意

力を結集し、一致協力して事にあたる「協心戮力」により実現していきます。

重点施策

～久喜市長が任期中に必ず成し遂げると定めた10項目～

1	雇用対策の強化
2	医療・福祉の充実
3	基礎学力の向上、知徳体の調和・慈しみ合う心の醸成
4	「環境立市ちちぶ」のさらなる推進
5	地域経済の活性化、第6次産業の確立と秩父銘仙の再興
6	訪れたくなる秩父を目指して
7	安心・安全なまちづくりの推進
8	強いライフラインの確保
9	より親しみやすい市役所づくり
10	公共施設の見直し（ファシリティマネジメント）と適正な財源確保の推進